

ディスカッション

各国医薬品卸業界の課題と フォーラムへの期待

パネリスト	〈日本〉	(一社)日本医薬品卸売業連合会国際委員会担当理事	岡野昌彦
		(一社)日本医薬品卸売業連合会国際委員会専門委員	木村 仁
	〈中国〉	中国医薬商業協会会長	付 明仲
		国薬集団医薬物流有限公司	劉 勇
	〈韓国〉	韓国医薬品都売協会会長	黄 治燁
		IMSヘルスコリア社長	許 鏡和
コーディネーター		(一社)日本医薬品卸売業連合会国際委員会委員長	村井泰介

日本、中国、韓国の講演に引き続き、講演者および各国の卸の代表者6名のパネリストによるディスカッションを行った。パネリストは、講演の感想や各国医薬品卸業界が直面している課題を語った上で、アジア・パシフィック医薬品流通フォーラムに対する今後の期待感を示した。

日時:平成25年10月18日(金)17:00~17:30

会場:目黒雅叙園4階飛鳥(東京)

本日の講演の感想

コーディネーター (村井) 講演に引き続き、ディスカッションを行いたいと思います。ご自身が受けた質問、あるいは他国のプレゼンについて、どのような感想を持たれましたか。木村さんからひと言お願いします。

木村 本日、中国側と韓国側のプレゼンを聞かせていただき、大変勉強になりました。

中国側でのプレゼンでは、国際的なアライアンスの下、流通企業を含めて流通市場が急激に伸びていることが非常に印象に残りました。

また、韓国側のプレゼンでは、高齢化社会の進展によって医療財政が非常に厳しい中、支払者側の力が強くなっていくという話がありました。これは、今後日本も大いに検討していかなければならない、考慮していかなければならないところであると、共感したところです。

コーディネーター ありがとうございます。付会長、

同じ質問です。他の国のプレゼンについてのご感想をお聞かせください。

付 日本と韓国の話を伺い、その中で高齢化の問題をはじめ、中国の医薬品市場が直面している共通課題があると思いました。医薬品の流通企業についての話も伺いました。そしてまた、サービス機能の面で、これから転換を図っていかなければならないという話もありました。

私ども中国も同じような課題に直面しており、これから転換していかなければなりません。どのように医薬品の最終ユーザーのために良いサービスを提供していくかは、共通の課題だと認識しました。

そして、医薬品流通の利益について韓国も日本も分析しており、医薬品市場での利益がどんどん少なくなっているという話がありました。そのため、大規模経営を行っていく必要性を感じました。アジア・太平洋地域にある医薬品の流通企業も、欧米のように総合的な方向に向けて転換していく必要があるのではないのでしょうか。現在、アメリカのアメリカソースパーゲンなどのM&Aの話があります。それは今後のこの

特集／第1回アジア・パシフィック医薬品流通フォーラム

業界において、非常に大きな意味を持つでしょう。

日本と韓国の報告を聞き、各国の業務の形態や現在行われているメリソースのM&Aなどからいろいろなことが学んでいけると思います。これが私の今日の感想です。ありがとうございました。

コーディネーター 許さんは、いかがでしょうか。

許 非常に素晴らしい内容を発表していただきました。個人的にも多くのことを学びました。ある意味、同じようなテーマを、少しずつ異なる視点で解釈しており、その一方で、流通業者、卸が抱えている課題は根本的に同じであると感じました。先ほど、中国の付会長がおっしゃったように、良いきっかけになると思います。共にアジア・太平洋地域において一緒に努力していけば、良い実りが得られるでしょう。

日本の発表を聞き、魅力的に感じました。それは、実際の事例のリサーチ結果を発表していただいたので、そう感じたのです。私が行ったのは、逆のアプローチでしたが、お伺いした内容は当事者の立場からまとめられた話でしたので、特にコストやサービスモデルといった面で大いに参考になりました。

中国の付会長の発表も非常に印象的でした。中国という大きな市場、ダイナミックな市場をうまく説明されたと感じました。特に印象深かったのは、物流のみならず、様々な流通業界のポートフォリオについて説明されたことです。また、様々なビジネスモデルとパートナーシップがあることや、大きな市場の流れについても説明していただきました。

私の感想としては、基本的なフレームは異なるとしても各国の問題認識では共通のものがあり、有意義な時間を過ごせたと思います。ありがとうございました。

各国医薬品卸業界の課題

コーディネーター 次の質問は、各国の卸の代表にお答えいただきたいと思います。

今日のプレゼンの中にもそれぞれありましたが、いまご自身の国の医薬品卸業界として抱えている最大の課題としては何が挙げられますか。韓国の黄会長からお願いします。

黄 韓国市場における最も大きな課題は、政府の薬価引下げ政策です。保険財政が脆弱なので、薬価に関し

て国が積極的に統制しようとしています。先ほどの発表にもありましたように、2011年度に平均16%の引き下げが行われました。その際、多国籍製薬企業の引き下げ率は少なかったのですが、韓国製薬会社では25%に至る引き下げが行われました。その結果、韓国の製薬企業は厳しい状況になり、そのような中で流通マージンも減っているという課題に直面しています。また、韓国市場では、様々な多国籍製薬企業が入ってきて営業しています。例えば、アメリカ系のメーカー、ヨーロッパ系、さらに日本系の製薬企業も韓国に進出し、営業を展開しています。そうした中、韓国市場において、平均的な流通マージンよりも少ないマージンしか提供しない多国籍製薬企業の横暴があります。そのため、国内の卸は困難な状況に立たされています。そういった多国籍製薬企業の低マージンは、大きな問題だと思っています。

コーディネーター 中国ではいかがでしょうか。

劉 中国の卸業が現在直面している問題、あるいは障壁は、まず中国の医療保険改革の不確定要素によってもたらされた問題です。まず、先ほど韓国のかたも話された薬価の引き下げがあります。1999年から継続的に医薬品の引き下げが実施されてきました。2～3年ほど前からは、医薬品基本政策が打ち出されました。それによってジェネリック医薬品の値段も下げられ、経営が逼迫状況に陥っています。

その背景には、わずか3年間で医療保険の給付を受ける人が3億人増えたことにより、政府の財政状況が極めて逼迫したことがあります。そのため、医療行為に対する管理、あるいは病院などの処置で医薬品の使用を制限することによって、その医薬品の成長率をある程度コントロールできるのではないかと考えられています。先ほど付会長が紹介したとお

左から木村、岡野、劉、付、黄、許の各氏



The 1st Asia-Pacific Pharmaceutical Distribution Forum

り、今年の成長率は15%で、対前年比で3ポイント低減したということです。

そして、もうひとつはリポートです。今年第1四半期において、リポートに関する取引によって大きな影響を受けました。ステークホルダーはいま調整段階に入っています。ビジネスモデルや利益の配分などが大きく変わることになるでしょう。

その意味で、我々は流通業界のファンクションをさらに増やし、地位を高め、利益ソースの多角化を追求していかなければなりません。また、売掛金の回収では、キャッシュフローに大きな悪影響を与えているという問題もあり、それを解決する必要があります。解決しなければ、我々は低コストで成長する道を歩めないと思っています。

コーディネーター 続いて岡野さん、同じ質問です。

岡野 いま、日本が抱えている課題は、昔から続いている悪い商習慣を改善することです。公的医療保険制度を続けるためには、まず商習慣を改善していかなければなりません。特に、単品単価で交渉することが必要で、また仮納入・仮払いを改善していくことが主なテーマだと思っています。

もうひとつ、日本では来年4月に消費税の増税と薬価改定が同時に行われます。そのことが価格交渉に影響しないよう、お得意様に対して消費税増税の趣旨や薬価の仕組みをしっかりと説明していかないと、思わぬ不利益を被るのではないかと考えています。特に価格交渉において、不利な立場に立たされてしまうといま以上に粗利益が取れなくなってきました。そうなると、医薬品卸として一番必要な設備投資、来たる大規模災害に対する対応や高度医薬品物流に必要な設備投資ができなくなってしまうのです。その投資を続ける上でも、しっかりした対応を図っていかなければならないと思っています。

フォーラムに期待すること

コーディネーター 最後の質問をいたします。このアジア・パシフィックフォーラムに期待することをひと言でお願いします。岡野さん、お願いします。

岡野 フォーラムを通して、各国の医薬品流通業が発展していくことを切に望んでいます。

もうひとつは、アジア・パシフィックエリアで医療用医薬品の不正取引やニセ薬の流通など、国をまたぐ問題が発生してきた場合、お互いが協力して対応ができる関係をしっかりとこのフォーラムを通して構築できれば、未来のためになると思っています。コーディネーター ありがとうございます。同じ質問です。付会長、いかがでしょうか。

付 今後の中日韓3か国のフォーラムは、この業界の発展のために団結していくべきでしょう。これからもいろいろな転換が図られ、新しい政策が出たり、調整を迫られることもあるでしょう。この業界は国の政策とも大変強い関わりがありますから、政策の見直しに伴う交渉調整も必要でしょうし、マーケティングや販売方式もいろいろと見直さなければならぬような情勢も出てくると思います。これらについても、お互い協力できればと思います。

コーディネーター 黄会長、いかがでしょうか。

黄 先ほどの発表資料を拝見しますと、世界の医薬品流通市場の2012年の規模は、アメリカ、日本、中国、ヨーロッパ各国という順序でした。2017年には、アメリカの次が中国、そして日本となります。韓国は13位ぐらいですが、これから世界の医薬品流通市場で北東アジアの影響力は大きくなると思います。

その日本、中国、そして韓国の医薬品流通業界の代表が集まり、こういったフォーラムを行うわけですから、各国の流通の発展のために議論できる場となるこのフォーラムは、非常に大きな役割を果たすと思います。

コーディネーター ありがとうございます。予定した時間になりましたので、ディスカッションを終えたいと思います。パネリストの皆様、誠にありがとうございました。

閉講のあいさつをする渡辺卸連合会副会長

